

研究成果発表会を開催 日本建設技術グループ



発行所
株式会社 九建日報社
〒812-0018 福岡市博多区住吉5-9-19
電話 代表 092(431)5361 番
FAX 092(431)7613 番
購読料 1ヶ月6,480円

北九州支局 TEL093(921)5011
長崎支局 TEL095(827)5595
熊本支局 TEL096(363)1553
大分支局 TEL097(594)0518
宮崎支局 TEL0985(24)6688
鹿児島支局 TEL099(259)3426
<http://www.kyuukennippou.co.jp>

【佐賀】日本建設技術(株) (唐津市北波多、原裕社長) グループは12日、平成26年度(第11回)の研究成果発表会を唐津市の唐津シーサイドホテルで開催し写真し、F.W.G透保水性舗装工法やクリスタルバイオの硝化反特性と工学的視点から見た水産養殖施設的设计手法、有明海再生提案とその展開について報告した。

発表会には全社員と来賓など約200人が参加。冒頭、原社長は「本年度も廃ガラスを再利用したミラクルソルの技術提案や情報発信を積極的に展開していく。地方の建設業の新たな進出には困難もあるが、夢や希望を持って立ち向かえば、決して不可能ではない。一丸となって更なる飛躍を目指す」とあいさつした。

成果発表では、企画開発戦略本部の飯田拓史氏が、ガラス質基材から製造した多孔質な水質ろ過材クリスタルバイオの硝化反特性と工学的視点から見た水産養殖施設的设计手法について、クリスタルバイオと他のろ過材を比較検討することで、「様々な飼育条件に適した容量を把握することができた」と研究成果を報告した。

佐賀大学教授の林重徳氏は「有明海再生提案とその展開」を題材に発表。悪化した土壌で構築した囲繞堤の堤内にミラクルソルを含む改善材を覆設し、その後、土壌と改善材を耕耘混合する低質改善技術を提案した。また、原社長は、「2013年度のあゆみとF.W.G透保水性舗装工法」と題して、平成25年度の活動を報告。透保水性のインターロッキングブロックと保水材としてのミラクルソルを活用し、路面温度の低下を図るF.W.G透保水性舗装工法の特徴や施工実績などを説明したほか、建設が進む玄海町立小中一貫校の外

構でも採用されたことを報告した。

成果発表の後に、佐賀大学低平地沿岸海域研究センターの荒木宏之教授は「継続的な研究活動や技術開発を高く評価したい。今後も企業の成長とともに、幅広い分野で活躍してほしい」と講評した。